公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和4年10月26日

施 設 名	高知県立牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部　自然共生課

1　施設の概要

指 定 管 理 者 名	公益財団法人高知県牧野記念財団	指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日
施 設 所 在 地	高知市五台山4200番地6		
事　業　内　容	・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の収受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 ※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する』 （高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条）		
施　設　内　容	○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など 〈植物園面積〉　約20.5ha（うち7.8haを利用）、駐車場（普通車など195台、バスなど8台） 〈主要施設〉　牧野富太郎記念館（本館、展示館）、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど 〈開園時間〉　午前9時～午後5時　　〈休園日〉 12月27日～1月1日 〈主な料金〉　入園料／一般730円（高校生以下無料）、団体630円（20名以上）、年間入園券2,930円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料（1時間当たり）／　映像ホール1,470～1,890円、アトリエ実習室520～630円など 撮影料／業として行う写真の撮影：撮影者1人当たり日額1,880円、業として行う映画の撮影：撮影機1台当たり1時間3,780円		
職　員　体　制	常勤職員：　27　人　　非常勤職員：　24　人　　合計：　51人		

「職員数は令和4年4月1日現在」

2　収支の状況

単位：千円

		令和2年度（決算）	令和3年度（決算）	令和4年度（予算）
収入	県支出金	436,139	465,526	462,403
	使用料・手数料	36,506	42,976	68,158
	その他	20,126	10,194	5,692
	収入計　（a）	492,771	518,696	536,253
支出	事業費	56,153	56,630	45,273
	管理運営費	220,036	211,200	248,452
	人件費	216,544	234,601	242,528
	その他	38	16,265	0
	支出計　（b）	492,771	518,696	536,253

3 利用状況

	令和2年度（実績）	令和3年度（実績）	令和4年度（目標）
①年間利用者数（単位：人）	115,908	128,623	185,000
②利用者意見等の反映	○ 利用者アンケート等の実施状況（時期・方法・回答数・調査結果等） ・接遇時等に行った来園者からの意見やアンケートの結果については、改善に向け検討を行い、誰もが利用しやすい植物園となるようサービス向上に繋げている。 ・苦情は適宜迅速かつ丁寧な対応に努め、経緯を含め職員へ周知し、対応に関する共通の認識を持つようにしている。		
③その他特記事項	・平成28年から小林製薬株式会社と薬用植物に関する共同研究を行っているが、この関連事業として、令和3年9月22日に栽培を担う東豊永集落活動センターとの三者間で調印式を行い、大豊町で試験栽培を行うこととなった。今回の取組は、薬用植物試験栽培だけに留まらず、中山間地域での担い手不足への対応や、集落活動センターの活性化など中山間対策に大きく貢献できるものである。 ・令和4年2月2日、牧野博士をモデルとした連続テレビ小説「らんまん」の制作決定が発表された。今後は全国的に牧野博士と牧野植物園が注目され、県の観光振興にも繋がることから大いに期待するところである。		

4 令和3年度業務評価

項　　目	状　況　説　明
①適正な管理運営の確保	・毎週、課長以上による会議を行い、事業の効果的な実施方法や協力体制について検討するとともに情報共有を行っている。 ・複数の学芸員有資格者を配置し、常設展示及び年2回程度企画展示を実施している。また、年4回季刊報を刊行し、広く門戸を開いた教室や講演会を実施している。 ・依然として職員の離職率が高く、将来に向けて組織維持力が懸念される。
②利用者サービスの維持向上	・来園者が多く駐車場不足が想定される夜の植物園などの際には、高知駅や臨時駐車場との間でシャトルバスを運行させるなどニーズに対応した取り組みを行った。 ・イベントや企画展など県内の報道機関にプレスリリースを配信し、年間243回の取材対応を行った。また、ファミリー層の来園促進のため外部イベントに出展し、1,000組以上の家族連れに直接植物園の魅力を伝えた。 ・園内のレストランでは、コロナ対策の一環として春と秋にテイクアウト用のお弁当販売をスタートした。また、季節や展示内容に合わせたスイーツやランチ等を共同開発し、来園者の満足向上に繋げた。
③事業実績	・栽培植物の管理においては、公開園地に植栽されているものは植物ラベルやパネルを積極的に更新し、来園者にアピールするとともに、長江圃場で管理している植物は、温室や土佐寒蘭センターなどで個々の植物の開花に合わせて一般公開を行った。温室ではラン科植物を中心に695鉢、伝統園芸植物は年12回の展示計画で413鉢を展示した。 ・研究分野では、研究活動の成果を原著論文24件、その他出版物13件、学会発表32件、講演会9件で発表した。 ・薬用植物研究では、大豊町で小林製薬と連携して薬用植物の栽培を通じて地域振興に繋がる商品開発を目指した取り組みを開始した。 ・応用開発研究では、1研究機関、5大学、3企業と連携し、有用植物の探査で得られた試料エキスライブラリーに基づく共同研究を実施している。
④収支の状況	入園者数は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて減少傾向であったが、令和4年2月に連続テレビ小説「らんまん」の制作決定が発表されて以降少し持ち直してきた。年間入園者数は前年度から12,715人増加し、利用料金収入も前年度から6,470千円増となった。
総合評価　A	1　コロナ渦にあって、必要な対策のノウハウは蓄積されており、可能な限り各種事業を実施するとともに、植物園に求められる役割を理解し、植物研究、薬用植物の産業利用、牧野博士の業績の顕彰、県民の憩いの場、教育の場、観光施設として、適切に管理運営を行った。 2　管理運営及び実施体制において、研究型植物園として他の公立植物園をリードする牧野植物園にとって、職員の離職率が高いことは大きな課題である。パワハラの改善を求めるとともに、絶えず組織が活性化するような風土改革の取り組みを検討し、課題解決に向けて取り組んで欲しい。 3　利用者ニーズの把握と誘客において、コロナ渦ではあるがYouTubeやInstagramなど工夫した取り組みは効果的であると思うが、来園者のアンケート結果の活用や対応ができていない。アンケートの内容や手法を検討し、動態調査の要素を取り入れてアンケート調査結果を効果的に活用するよう取り組んで欲しい。 4　様々な取組を世界基準で見たときに、サスティナブルへの取組はマストの時代になってきている。これからの事業展開においてすべての要求水準においてこの取組は前提であるべきと考えている。既に取り組んでいる分野もあり、今後は打ち出し方を検討し、様々な事業展開に取り組んで欲しい。 5　連続テレビ小説「らんまん」の制作決定が発表され、今後、広く全国に認知され、日本を先導する総合植物園として牧野植物園がますます活性化されることを期待する。

【評価の目安】　A：仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
B：おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
C：仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
D：管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの